都立中央図書館整備に係る基本方針（案）

令和８（2026）年６月　東京都教育委員会

はじめに

◆ 都立中央図書館は、昭和48（1973）年に都立日比谷図書館の蔵書を引き継いで開館しました。都立図書館の使命である「東京の未来を拓く力となる知の集積・発信」を実現すべく、首都東京の広域的・総合的な情報拠点として、国内の公立図書館では最大級の豊富な蔵書を活用し、調査研究から身近な生活に役立つ情報収集まで、幅広く人々の支援を行っています。

◆ 人口減少や緊迫する国際情勢等、社会の変化は急激に進んでおり、複雑な課題に対応するためには、新たな知識や情報が絶えず必要となっています。また、デジタル技術の進展により、誰もが気軽に情報を発信できるようになった現代社会では、インターネット上に氾濫する様々な情報に惑わされずに、公正で信頼できる情報に触れられる場所が求められています。図書館は、その役割を担い、人々が安心して知識を身に付けるための基盤となる存在です。

◆ さらに、図書館は、単に情報を受け取るだけの場所ではなく、得た知識を活用し、創造をする場へと変わりつつあります。変化が激しく先が見えない現代を生きる人々が、未来に希望を持って日々を歩んでいくためには、得た情報を自分なりの言葉に咀嚼し、試行錯誤をしていく経験を通して、創意工夫をする力、困難に前向きに向き合えるしなやかな知性を身に付けることが必要です。

◆ 東京都教育委員会は、令和７（2025）年４月に「都立中央図書館の在り方」を策定し、新たな図書館のコンセプトを“Library for Creation(創造・交流図書館)”と定めました。また、同月に策定された「神宮前五丁目地区まちづくり方針」においては、新たな図書館がまちづくりの軸として、他の導入機能と連携しながら、まちづくりの将来像である「誰もが集い・つながる、開かれた『智の創造拠点』」の実現に寄与していくこととしています。

◆ 新たな図書館では、人々に様々な知との出会いを提供し、知に触れる楽しさや喜びに気が付くことができる場所となるとともに、誰もが知的創造や発信を行うことができる、憩いと交流の場となることを目指します。

令和８（2026）年６月　東京都教育委員会

目 次

1　都立中央図書館の概要
（１）都立中央図書館の現状　・・・

1　都立中央図書館の概要

（１）都立中央図書館の現状

○　昭和48（1973）年に、東京都立日比谷図書館の蔵書を引き継いで開館した、地上５階、地下２階建ての**国内最大級の蔵書規模を誇る公立図書館**

○　開館から50年以上が経過し、**老朽化や書庫の狭隘化**が進んでいる状況

施 設 概 要

- 所在地　：東京都港区南麻布五丁目7−13
- 開館　：昭和48（1973）年１月
- 敷地面積　：9,157 ㎡
- 延床面積　：23,196㎡
- 蔵書数　：図書　約232万冊（開架可能冊数は約35万冊）
  雑誌　約6,100タイトル
  新聞　約1,200タイトル
- 閲覧席数　：932席（スツール席含め、1,066席）
- 入館者数　：年間280,668人、1日平均８６１人
- 入館時間　：月～金曜日（午前10時～午後9時）
  土日祝休日（午前10時～午後5時30分）
- 職員定数　：97名（うち司書71名）
  【内訳】管理部37名(うち司書17名)
  サービス部60名(うち司書54名)

※数字は全て令和6（2024）年度実績

5F	特別文庫室／閲覧室／調査研究ルーム／交流ルーム／カフェテリア／書庫
4F	閲覧室／グループ閲覧室／企画展示室／多目的ホール／事務室／書庫
3F	人文科学系資料・閲覧室／視覚障害者サービス室／書庫
2F	社会・自然科学系資料・閲覧室／書庫／事務室
1F	中央ホール／閲覧室／各情報コーナー／書庫／事務室
B1F	書庫／事務室
B2F	書庫／機械室

所 蔵 資 料

- 約232万冊と国内最大級の蔵書規模
- 図書以外にも新聞や雑誌、音声・映像資料、視覚障害者用資料等多様な資料を所蔵

日本語資料	一般書	約150万冊
	東京資料	約27万冊
海外資料	洋書	約20万冊
	中国語図書	約8万冊
	韓国・朝鮮語図書	約3万冊
特別文庫		約24万冊

新聞	約1,200タイトル
雑誌	約6,100タイトル
音声・映像資料	レコード・CD／ビデオテープ・DVD等
視覚障害者用資料	録音資料/点字資料/点字雑誌・新聞/録音雑誌・新聞

※数字は全て令和６（2024）年度実績

建物外観

中央ホール

都市・東京情報コーナー

特別文庫室：貴重資料の所蔵

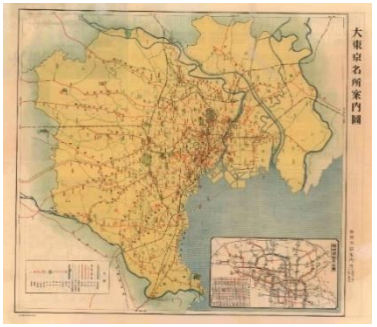
（２）都立中央図書館の果たす役割

○ 「図書館の設置及び運営上の望ましい基準」に基づき、都道府県立図書館の一つとしてサービスを展開
○ 閲覧サービスの提供や調査研究への支援、都内区市町村立図書館へのレファレンス支援や協力貸出等が主なサービス内容
○ 運営に当たっては、東京都立図書館協議会（図書館法に基づき設置）の提言等を踏まえながら、サービスの向上に努めている

（３）都立中央図書館の強みや特色

○ **国内公立図書館で最大級の豊富な蔵書と質の高いレファレンスサービスの提供**
・原則１点のみ収集、蔵書数は230万冊を超える。レファレンスサービスは年間４万件超

○ **特徴的なコレクション**
・江戸時代後期から明治時代中期の資料を中心に、重要文化財を含む貴重資料を約24万３千点所蔵
中には、第二次世界大戦中に東京都が民間の学者や蔵書家から買い上げ、疎開をさせ戦災を免れた資料を含む
・東京都の行政資料及び東京に関する資料、明治以降の地図等を多数収集
・全国の県史、市史、町村史等の地方史を多数所蔵
・美術全集や展覧会目録なども約７万５千冊を所蔵
・海外資料に関しても幅広く所蔵（洋書約19万８千冊、中国語図書約７万９千冊、韓国・朝鮮語図書約２万８千冊等）



『大東京名所案内圖』

道府県史・市町村史などの
史誌類約６万冊を所蔵

近隣美術館での展覧会関連資料を展示

○ **都民の課題解決のための充実したサービス**

・都市・東京情報、ビジネス情報、法律情報、健康・医療情報の４つの分野について、重点的に情報を集めたコーナーを設置。また、多くの資料が開架で利用可能

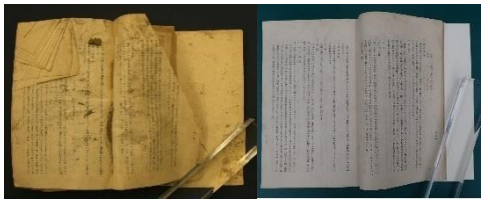
・都政に関する情報を印刷物に限らず収集し、都職員の政策立案を支援

都民ニーズの高い分野について、
重点的に情報を集めたコーナーを設置

○ **高い資料管理能力と資料保全技術**

・調査に必要な書誌データを独自に整備するなど、高度な資料管理を実施

・公立図書館で唯一の資料保全室を持ち、資料保存についての調査・研究や、劣化・損傷した資料の修復を実施
東日本大震災で被災した資料について、これまで培ってきたノウハウを生かして修復を実施



被災した資料の修復

○ **幅広い展示やイベントの実施**

・図書館見学ツアーや謎解きイベント等の体験型のイベントや、大使館と連携した展示等を実施し、資料の利用促進を実施

○ **デジタル技術の活用**

・「東京都立図書館デジタルアーカイブ（TOKYOアーカイブ）」や電子書架（Digital BookShelf）、AIを活用した資料探索支援（AI ChatShelf）など、デジタル技術を活用し誰もが必要な情報に辿り着ける環境を整備

東京都立図書館デジタルアーカイブ

○ **誰もが使いやすい情報環境の整備**

・視覚障害者サービスを実施するなど、バリアフリー化に向けた先進的な取組を実施

・録音資料、点字資料に加え、より速く作成できるテキストデータの提供や、オンラインでの音訳サービスを実施

2　これまでの検討経緯

（１）都立中央図書館の在り方及び神宮前五丁目地区まちづくり方針

○　令和７（2025）年４月、新たな図書館のコンセプト及び新たに付加する３点の機能を示した「都立中央図書館の在り方」を策定

○　「都立中央図書館の在り方」では、新しい図書館は渋谷区神宮前五丁目地区の都有地を整備地とすることを言及

○　また、同時期に公表された神宮前五丁目地区まちづくり方針では、新たな図書館を、まちづくりの軸となる機能として位置づけ、他の機能と連携し、相乗効果を発揮しながら、「智の創造拠点」を実現していくことが定められた

都立中央図書館の在り方（令和７年４月）

＜新たな図書館のコンセプト＞

“Library for Creation (創造・交流図書館)”

＜新たに付加する３点の機能＞

「知的好奇心を喚起し学びを深める」
「人々の創造や交流を生み出す」「多様な知を集積・発信」

３点の機能（創造・交流機能）

①知的好奇心を喚起し、学びを深める

新たな創造に繋がる智の循環

②人々の創造や交流を生み出す

③多様な知を集積・発信

従来の強み
（豊富な蔵書を活用し、様々な調査研究に対応できる高度なレファレンス等）

新たな図書館では、従来の強みや特色を生かしながら、３点の機能を相互に作用・循環させることで新たな智の創造につなげていく

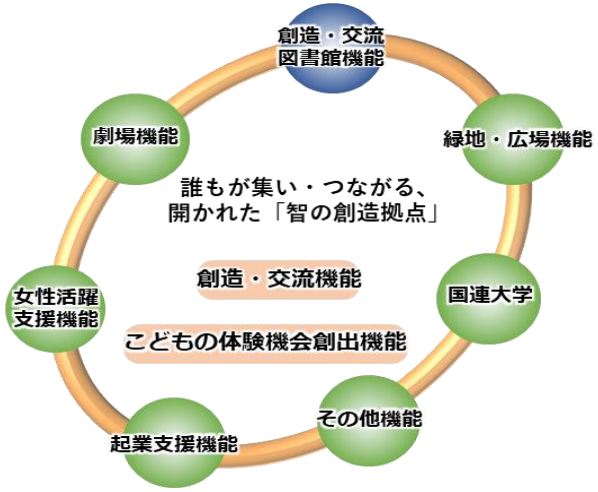
神宮前五丁目地区まちづくり方針（令和７年４月）

＜将来像＞

誰もが集い・つながる、開かれた「智の創造拠点」

＜軸となる機能＞

創造・交流図書館機能



創造・交流図書館を軸として、その他の導入機能と連携し相乗効果を発揮しながら、まちの将来像を実現していく

（２）移転予定地について

○ 神宮前五丁目地区について

・新たな中央図書館の整備予定地である神宮前五丁目地区は、青山通りに面し渋谷駅から１km圏内に位置する交通利便性の高い地区である

・当地区のまちづくりでは、約4.5haの都有地を一体的に活用し、劇場や起業支援、女性活躍支援等とともに新たな中央図書館を整備することとしている

出典：国土地理院ウェブサイト_地理院地図Vector（試験公開）
（https://maps.gsi.go.jp/vector）

周辺環境

交通	• 渋谷駅、表参道駅（徒歩10分程度） 明治神宮前駅（徒歩15分程度） • 青山通り、明治通り
商業	• MIYASHITA　PARK、表参道ヒルズ等の複合商業施設 • アパレルショップ、雑貨店等が立ち並ぶキャットストリート
教育	• 国連大学（地区内） • 青山学院大学

3　新たな都立中央図書館が目指す図書館像

（１）新たな図書館の整備に向けた検討

○ 新たな都立中央図書館における具体的なサービス内容や施設等、更にまちづくりとの連携について、専門的な見地から意見を聴取するため、「新たな都立中央図書館整備に係る有識者会議」を設置

○ 有識者からの検討の視点や、まちづくりにおける重要な視点を踏まえながら、方向性を検討

有識者からの主な視点

※有識者会議で挙がった主な議論については、巻末の参考資料を参照

- ✓ 世界都市東京の図書館
- ✓ 最先端のデジタル技術
- ✓ 多様な学びができる
- ✓ 希少な自然環境を生かす
- ✓ 江戸東京の歴史・文化
- ✓ 約232万冊の蔵書の活用
- ✓ 誰もが創作・発信できる
- ✓ 開かれた憩いの空間
- ✓ 産業界、学術界、観光客等多様な人々が参画
- ✓ 利用者同士の交流を生む

まちづくりを進めていく上での重要な視点

※「神宮前五丁目地区まちづくり事業　事業実施方針」より

「共創・交流」により新たな価値を創出・発信

多様な主体との関わりがもたらす共創・交流により、新たな価値を創出・発信

多様な過ごし方を選択できる「仕掛け」

一人ひとりの興味や関心に合わせた、学び、体験、挑戦、気づき、創造・交流等が生まれる場を提供

柔軟な対応ができる「余白」

作り込みすぎずサービスを供与しすぎないことで、能動的な創造・交流活動を誘発

時代や状況の変化、ニーズに柔軟に対応する「仕組み」

常に新しい「わくわく」を提供できるよう、多様な主体との関わりによりアップデート

（２）新たな都立中央図書館が目指す４つの図書館像

神宮前五丁目地区まちづくりの軸として役割を果たし、コンセプトである**「Library for Creation」**を実現していくため、新たな図書館像を整理

【４つの図書館像】

１：世界都市東京の「知の広場」となる図書館

・まちの**機能**との**連携**や産業界・学術界・観光客等、東京に集まる多様な人々との**共創**により、**様々な知との出会いや交流**を提供
・江戸・東京の**所蔵資料等**を**活用**した**東京の歴史・文化の伝達やシンボリックで魅力的**な建築等、文化的価値を有した世界都市東京にふさわしい図書館

２：知を広げ、学びを深められる図書館

・**一人一人の興味**や**関心**に合わせ、**多様な学び**ができる**仕掛け**を備える
・**デジタル技術を活用**したサービス等により、遠方からでも所蔵資料にアクセス可能な図書館
・従来の都立図書館の強みである、豊富な蔵書、高度かつ専門的なレファレンスサービスの提供により、人々の課題解決を支援

３：誰もが知的創造・発信を生み出せる図書館

・**子供**から**大人**、**障害者**など、**誰も**が創意工夫しながら多様な創作に取り組むことができ、さらにはその成果を**発信**できる
・**時代の変化**や**ニーズ**に合わせ、デジタル技術をはじめとする、様々なサービスを提供できる**仕組みを備える**

４：自然を感じ、知がひらく図書館

・当地区が有する緑地や琵琶池などの**自然環境**や敷地内の**高低差等の特色**を生かし、人々が**気軽に立ち寄る**ことができる**開かれた図書館**
・利用者が、リラックスをすることで**創造性を発揮できる**よう、**可変的で柔軟性のある、余白**を持った空間づくり

（３）Library for Creationと図書館像との関係について

世界都市である東京の図書館として、**様々な知と出会い、学びを深め、自然を感じられるリラックスできる空間で、誰もが知的な創造活動に取り組める場所を形成**し、人々の創造性を育む

“Library for Creation“
(創造･交流図書館)　　**新たな智を生み出す空間**

図書館像

世界都市東京の「知の広場」となる図書館	知を広げ、学びを深められる図書館	誰もが知的創造･発信を生み出せる図書館	自然を感じ、知がひらく図書館

３点の機能
(創造･交流機能)

①知的好奇心を喚起し、学びを深める　②人々の創造や交流を生み出す　③多様な知を集積･発信

＋

従来の強み

多様な調査研究に対応できる豊富な蔵書、司書の高度かつ専門的なレファレンス、高い資料保全技術　等

果たす役割

首都東京における広域的･総合的情報拠点として、都民の知る権利に応え、必要な情報へのアクセスを保障
調査研究をはじめ、様々な課題の解決を支援するとともに、都内区市町村立図書館や学校等への協力支援を実施

4　図書館像に基づき提供するサービスや空間（イメージ）

世界都市東京の「知の広場」となる図書館

【目指すもの】

・まちの**機能**との**連携**や産業界・学術界・観光客等、東京に集まる多様な人々との**共創等**により、知的好奇心の喚起や交流を促すきっかけとなる様々なサービスや空間を提供

・最新のデジタル技術等を用い、江戸・東京関連の**所蔵資料等**を**活用**し**東京の歴史や文化を伝達**するとともに、**シンボリックで魅力的**な建築等、世界都市東京にふさわしい図書館を目指す

【必要な機能】

01　共創等により、様々な知との出会いを創出する場

利用者の活動イメージ（例）

- 本の世界を音楽で表現するコンサートや五感で体験することができる展示など、多様な体験ができるプログラムに参加
- スタートアップ企業による最先端技術のデモンストレーションを見学
- 劇場や国連大学、女性活躍などのまちの機能と連携した企画に参加したり、産業界・学術界・観光客等、当地区に集まる多様な人々との交流ができ、様々な気付きを得る
- ＶＲやＡＲを用いた五感で触れる展示など、その時々の最適なデジタル技術を用いた、多様な体験ができる

活動を支える空間・設備・サービス

- 様々なプログラムが実施できるオープンなスペース
- 訪れる人々がおのずと交流したくなる賑やかな空間
- リアルとバーチャルを融合した体感ができる機材や空間

02　文化的価値を有した世界都市東京にふさわしい図書館

利用者の活動イメージ（例）

- 江戸・東京関連の貴重資料のデジタル展示を閲覧
- 最新の観光資料から行政資料、歴史ある資料まで、東京に関連する幅広い資料を読むことができ、新たな東京の魅力に気が付く
- 海外の図書館や大使館等と連携したイベントに参加したり、海外資料に触れ、世界が広がる
- 魅力的な外観や内観に興味が湧き、観光名所として訪れる

活動を支える空間・設備・サービス

- 貴重資料を再現することが可能なデジタル機材や展示空間及び貴重資料の長期保存やメンテナンスを可能にする専用スペース
- 東京関連資料を幅広く取りそろえ、積極的に開架できるスペースの確保
- 海外資料を積極的に活用し、利用者の幅広いニーズに応える
- 東京の新たなランドマークとなるシンボリックで魅力的な建築や内装デザイン

© kuvaajan nimi / Helsingin kaupunki（ヘルシンキ）

出典：石川県立図書館公式HP

知を広げ、学びを深められる図書館

【目指すもの】

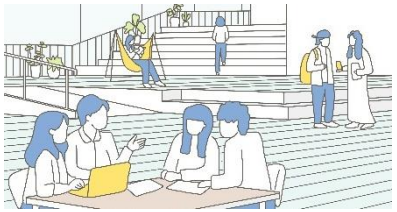
・**一人一人の興味**や**関心**に合わせ、集中して取り組んだり、対話を通じて新たな価値観に気付くなど、**多様な学び**ができる**仕掛け**を備える

・**デジタル技術を活用**したサービス等により、遠方からでも所蔵資料にアクセス可能な図書館を目指す

・従来の強みである、豊富な蔵書や高度かつ専門的なレファレンスサービスの提供により、人々の課題解決を支援する

【必要な機能】

01 一人ひとりの興味や関心に合わせ、多様な学びができる仕掛けを用意



利用者の活動イメージ（例）

- 豊富な蔵書を活用した司書による企画展示やテーマ別配架等を見て、思いがけない本と出会い、新たな発想や発見が浮かぶ
- 静かに学ぶ、ディスカッションする、くつろぎながら勉強するなど、多様な学び方を可能にする
- 探している本の取り出しや複写など、図書館サービスが快適に利用できる

活動を支える設え・設備・サービス

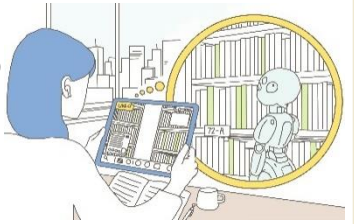
- 様々な企画を行うことができる可変性のある企画展示スペースや、面出し（表紙が見えるように配架すること）やテーマ別展示を可能にする十分な開架スペース
- 一人で集中できる席や仲間と話をできる席、くつろげる席等、多様な形態の閲覧席や、グループでの議論が可能となるゾーニング、長時間の滞在を可能にする電源の充実
- 読書バリアフリー法に留意し、録音資料や点字資料、アクセシブルな電子書籍の充実を図り、障害のある方でも資料にアクセスしやすい環境の整備を行う
- 出納、閲覧、複写をスムーズに行えるゆとりのある動線やバックオフィス

02 デジタル技術を活用した非来館サービスの充実

利用者の活動イメージ（例）

- 遠隔地からも、デジタル技術を活用して都立図書館の資料にいつでもアクセスできる（VR技術の活用、TOKYOアーカイブ等）

活動を支える空間・設備・サービス



- 東京関係の資料・情報、貴重資料等のデジタル化・オープンデータ化の強化
- オンラインでのレファレンス対応の強化や、音訳サービスの提供等、情報を容易に探索しやすくなる環境を整備
- ロボットを活用して図書館内の見学ができる等、来館しなくとも、図書館を体感できる環境を整備

03 豊富な蔵書と高度かつ専門的なレファレンスサービスの提供で課題解決を支援

利用者の活動イメージ（例）

- 司書によるレファレンスサービスにより、課題解決のきっかけを得られる

活動を支える設え・設備・サービス

- 司書による高度なレファレンスサービスや、内容に応じた専門機関等への紹介を行い、利用者の課題解決をサポート
- 都内区市町村立図書館への協力貸出しや協力レファレンスなど、地域全体での資料や情報、技術の共有により、都民の課題解決に寄与
- 利用者の幅広いニーズに応えるため、蔵書及び書庫を拡充
- 分野別の専門研修等、様々な研修を実施し、司書の専門性を高める

誰もが知的創造・発信を生み出せる図書館

【目指すもの】

・**子供**から**大人**、**障害者**など、**誰も**が創意工夫しながら多様な創作に取り組むことができ、さらにはその成果を**発信**。それを見た人が新たな知と出会う知の交流を促す

・**時代の変化**や**ニーズ**に合わせ、デジタル技術をはじめとする、様々なサービスを提供できる**仕組み**を備えた図書館を目指す

【必要な機能】

01 時代の変化やニーズを踏まえ、子供から大人、障害者など、誰もが新たに創作できる

利用者の活動イメージ（例）

- 撮影や動画編集など、デジタル機材を使い創作ができる
- 江戸時代の遊び道具を活用し、楽しみながら文化や言葉に触れられる
- 江戸や世界のレシピ本を再現した料理や、神宮前五丁目地区に新たに整備される劇場の公演内容にちなんだメニューを作ったり食べたりできる
- 読む、見る、触る、聞く等、様々な形で本に触れられる
- 子供や障害者等、利用者の特性に合わせて様々なプログラムが体験できる

活動を支える設え・設備・サービス

- 全ての人が、演技・演奏・撮影・編集・工作・調理等、幅広い創作活動ができる環境を整備
- ３Dプリンター等を活用した触れる展示等、障害の有無等に関わらず誰もが楽しめる企画の実施
- 画材や文房具等、創作活動や研究活動に必要な物品を購入できる場を提供
- デジタル技術も活用し、子供や青少年が様々な体験・学習をし、自らの興味・関心を見つけるきっかけとなるプログラムを提供
- 利用者同士でのインタラクティブな情報発信・交流を促したりするイベントや施策を実施

02 誰もが様々な形で発信・発表ができる場

利用者の活動イメージ（例）

- おすすめ本を紹介したり、交流会に参加して考えを発言する等、普段発表する機会が少ない人も気軽に発信できる
- 学んだ成果や創作したものを、蔵書とは異なる形で、展示したり記録したりすることができる
- 学びの成果を見た人が、自分も何か創造できるかもしれないという自らの可能性に気付く

活動を支える設え・設備・サービス

- 作品や研究成果等の展示・発表や商品の体験会等が実施可能なオープンスペース
- コンテンツの規模や内容に応じ、広さや座席形態を調整できる可変性のあるホール
- 利用者の学びの成果をアーカイブできる環境を用意
- 図書館での活動が他の来館者に見えるようにし、創作や発表の意欲につなげる

自然を感じ、知がひらく図書館

【目指すもの】

・当地区が有する緑地や琵琶池といった**自然環境**や、敷地内の**高低差等の特色**を生かし、人々が**気軽に立ち寄る**ことができる**開かれた図書館**を目指す

・利用者が、リラックスをすることで**創造性を発揮できる**よう、**可変的で柔軟性のある、余白**を持った空間づくりを行う

【必要な機能】

01 緑地や琵琶池等、大都市に古くから残る貴重な自然環境を生かし、知を醸成することができる場

利用者の活動イメージ（例）

- 自然を感じられる空間でリフレッシュでき、思考が深まる
- 緑に囲まれた落ち着いたカフェやレストランで、のんびりできる
- 自然を眺めながらゆっくり読書ができる
- 神宮前五丁目地区のまちのあらゆる場所で、イベント等に関連した本の一節に触れることができ、関心が深まる

活動を支える設え・設備・サービス

- 琵琶池周辺の自然が感じられるくつろぎの空間の演出
- 緑を眺めながら、休憩ができるカフェ・レストランや読書ができる閲覧席等を配置
- まちのその他の導入機能でも、デジタル技術を使い図書館の情報を積極的に発信

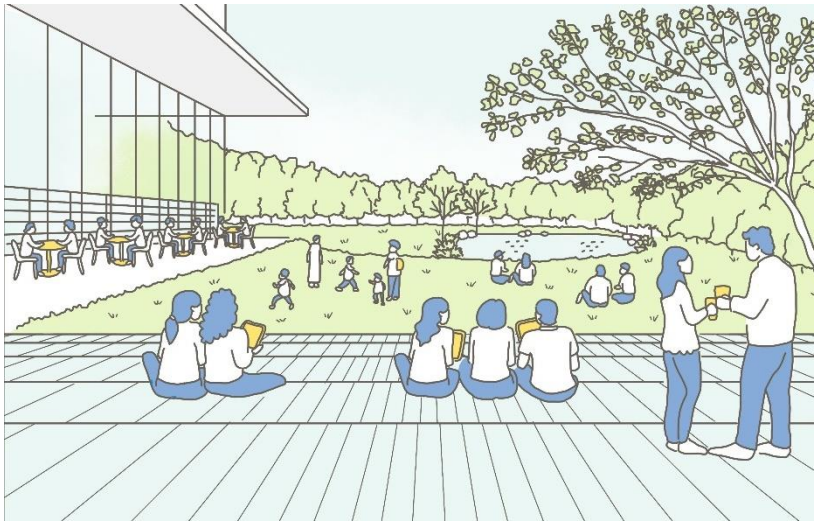
02 可変的で柔軟性のある、余白をもった居心地の良い空間

利用者の活動イメージ（例）

- 「迎え入れられている」「開放的である」と感じ、思わず図書館に入りたくなる
- 館内へのアクセスの仕方等によって、その時々で新鮮な気持ちで１日を過ごすことができる

活動を支える設え・設備・サービス

- 利用者が存分に創造性を発揮できる、ゆとりのある空間づくり
- 図書館を目的地としない来訪者もふらっと立ち寄れる、居心地の良い、屋外とシームレスにつながる空間を形成
- 時間帯やニーズに合わせてレイアウトが変更できる可動性を持った空間



利用者が新たな智を生み出す行動のプロセス（イメージ）

緑と水を感じられる居心地の良い環境が創造性を引き出す

出会う

誰もが創造・発信でき、新たな知との出会いに繋がる

知的好奇心を喚起させる様々な知との出会い

発信する

新たな創造に繋がる智の循環

興味を持つ

知を広げ、深めていく多様な学び

やってみる

学ぶ

発信する→出会う

生み出された学びの成果を見た人が新たな知と出会う

知と出会う→興味を持つ

様々な知との出会いをきっかけに、知りたい、やってみたいというインスピレーションが喚起される

やってみる→発信する

試行錯誤を経て生み出した学びの成果を集積・発信

学ぶ⇆やってみる

学んだことを図書館にある様々なツールを活用して創作。創作を通じて出た疑問を調べるなど、試行錯誤する

興味を持つ→学ぶ

自身の興味のある領域やテーマを見つけ、人との対話や図書館にある様々な知を活用し、学びを深めていく

活動エリアについて（イメージ）

各図書館像から想定されるエリアについては、以下を想定

◆ 様々な知と出会えるエリア（世界都市東京の「知の広場」となる図書館）

・多目的に利用可能で様々な知と出会えるオープンスペース　・江戸・東京の文化を発信していくスペース
・デジタル技術を活用した展示等、様々な展示ができるスペース　等

◆ 学びのエリア（知を広げ、学びを深められる図書館）

・充実した開架スペース　・他者とディスカッションができる区切られたスペース　・集中して調査・研究ができるスペース
・１人で本を読んだり、話したり、くつろいだりできる多様な閲覧席
・長時間滞在を可能にする飲食可能なスペース　等

◆ 創造・発信エリア（誰もが知的創造・発信を生み出せる図書館）

・演技や演奏が可能なスタジオ
・ものづくりができるスペース
・子供が遊びながら知的な活動に触れられるスペース
・利用者の作品を展示可能なスペース
・撮影や編集、画像加工ができるスペース
・調理が可能なスペース
・創作活動や研究活動に必要な物品を購入できるスペース
・多目的に利用可能で分割可能なホール　等

◆ 自然を感じられるエリア（自然を感じ、知がひらく図書館）

・自然を感じながら休憩できるカフェ　・屋外とシームレスに繋がるエントランス空間
・プログラムに合わせてレイアウトを変更できる可変的なスペース　等

その他、資料保存のためのスペースや、管理運営に必要なスペース、共有スペースを見込む

施設規模等について（想定）

施設規模	延べ床面積は、40,000㎡程度を上限とする（現状は23,196㎡）
収蔵能力	収蔵能力については340万冊程度とし、開架可能冊数については従来の規模よりも拡大させることを想定　（現状は開架可能冊数は35万冊程度）
閲覧席数	1,800席程度の閲覧席を設けることとする　（現状は932席（スツール席含め1,066席））
管理運営の在り方	選書やレファレンスサービスなど、司書が担っている専門的なサービスについては都の直営、新たに付加する創造・交流機能については、まちづくりの事業者の提案内容を効果的に実現できるよう、例えば指定管理者制度等、民間活力を活用してサービスを展開することも想定
整備の方向性	まちづくりの他の導入機能と相乗効果を発揮できるよう、創造・交流図書館機能及び創造・交流図書館機能と相乗効果を発揮する他の導入機能が、機能面・空間面において有機的につながる複合建築物を事業者が整備する計画とする 具体的には、複合建築物のうち、創造・交流図書館に必要な床について、施設整備後に区分建物として都が買い取ることとする（各種設備や内装、書架、躯体と密接不可分な什器等を含む）

今後のスケジュールについては、「神宮前五丁目地区まちづくり事業事業実施方針」の公募スケジュールと連動

参 考 資 料

新たな都立中央図書館整備に係る有識者会議

本計画の策定に当たっては、新たな都立中央図書館における具体的なサービス内容や施設等について、専門的な見地から意見を聴取するため、「新たな都立中央図書館整備に係る有識者会議」を設置し、検討を行いました。

委員名簿

氏　名	職　名
朝 日　ち さ と	東京都立大学教授
遠 藤　新	工学院大学教授
木 村　朝 子	立命館大学教授
小 林　真 理	東京大学教授
田 中　元 子	株式会社グランドレベル 代表取締役社長
田 中　里 沙	事業構想大学院大学長

氏　名	職　名
中 井　孝 幸	愛知工業大学教授
中 島　さ ち 子	株式会社steAm代表取締役
中 野　泰 志	慶應義塾大学教授
野 末　俊 比 古	青山学院大学教授
吉 見　俊 哉	國學院大学教授　※座長

※敬称略、五十音順にて記載。職名は令和８年３月時点

会議日程・主な議事

第１回（令和７年７月16日）　議事：会議の目的、都立中央図書館の在り方及びまちづくり方針
第２回（令和７年12月24日）　議事：利用者の活動・空間・施設構成イメージ、まちづくり事業スキーム等
第３回（令和８年２月３日）　議事：石川県立図書館（事例研究）、新たな図書館が目指す将来像、まちづくり事業スケジュール案
第４回（令和８年３月６日）　議事：将来像に基づき提供するサービスや設備、基本方針案構成等

※第２回以降は、実施方針等に係る情報が含まれるため非公開での実施

有識者からの主な御意見①

（１）図書館で生み出されるCreationとは何か

➢ここに来たら面白い本や道具に出会った等、人との出会いも含め、**様々な出会いを創出する開かれた場**が公的にあるべき。様々な人とのごちゃ混ぜの出会いを創出するような場をうまく作れると面白い

➢新しいこと等、**何かをやりたい人が資料を調べてできる**ことが大事。個人貸出しをしていないことで本がずっと図書館にあるのが大きな魅力。Creationをメインに取組を考えるべき。200万冊超の蔵書、知を見せることもCreationに大きな影響を与える

➢図書館が図書館たるゆえんのひとつがコンテンツ。**利用者が作り出した学びの成果や経過を集積**し、それを他の利用者が見たり使ったりして新たな学びを起こす。人の学びが蓄積されることで、時空を超えて他の人が学ぶことができる

➢“Library for Creation“というコンセプトを実現していくことから考えると、根本的に大切にすべきなのは、インプット型の図書館ではなく、**考えてみたい、創りたい、という気持ちを後押ししていくことで、多様な創造性の交差点となる**こと。**創作や試行錯誤、対話といったプロセスに光が当たるような工夫**ができると良い

➢図書館はインプットだけの場ではない。**吸収したものを自分の中で編集し、発信して、それに創発された人が新たに知的活動を始める**という、そのサイクルの中での図書館の位置づけを考えると、Library for Creationというコンセプトがものすごく生きてくる

➢**本はそもそもインタラクティブ**であり、AIと異なり創造性を内在している。新たな創造につながる智の循環というのは、本そのもの

➢図書館は貴重な資料も多く、時を超えて昔の物が今この目の前に現れるという意味でタイムレス。**時間や成長を感じられる場や体験ができると良い**

有識者からの主な御意見②

（２）新たな図書館のターゲット層

➢ものづくりだけではなく、知的好奇心を喚起する瞬間そのものがクリエイティブ。知を経験することに不慣れな人へのアプローチが大切。**知る機会を多角的にもたらして欲しい**

➢**多摩地域や島しょ在住**も含めた都民をはじめ、多様な利用者を見据えることが重要。そのために**DXは必須**

➢真の意味で、**全ての人が知の集積地に、精神的・物理的にアクセスでき、それを創造へと結びつけることができる**機能へと進化できると良い。建物のバリアフリー化は当然として、DXをフル活用してほしい

➢インクルーシブ教育の実現において、図書館は重要な位置付け。社会に出ていく子供達に対し、学校だけでなく**社会における交流及び共同の学習の場**として、この図書館が位置付けられると良い

（３）Creationを生み出す空間づくり

➢様々な生き方や「こういう人もいる」ことを偶発的に目にすることは、 Creativityに与える影響が高い

➢現地の敷地のレベル差を一望できる雰囲気があると、他者の様子が自然と目に入り、Creationに生きる

➢賑やかな場所と従来の調査研究の静かな場所が上手く階層性を持ちつつ、相互関係を持つ作り方ができると良い

➢土地には相当特徴的な高低差がある。崖の下に江戸時代から続く池があり、その周りは密林。渋谷のど真ん中なのにジャングルのようになっている。**ここにしかない、この土地が元々持つ特性や自然を生かす必要がある**

➢渋谷は高い建物が多く**オープンスペースが希少**。様々な刺激を受ける場所にあり、それを咀嚼する静けさも貴重

➢自然空間が認知機能の回復を助けること、人の滞留や交流をもたらすことは、心理学や環境の分野で、ある程度エビデンスが蓄積されていると思う。**自然が「創発」を促すという動的なイメージ**を打ち出すことが適する

➢「開かれている感じ」「迎えられている感覚」を持たれる仕掛けが大事で、**屋外とのシームレスな場**も必要

➢中央図書館は静かに読書したい人も一定数いる。静かな場の必要性は高い。**空間づくりの柔軟性、可変性が大事**

有識者からの主な御意見③

（４）従来の図書館の強みや特長を活用

➢図書館法や望ましい基準に基づき、**現行の都立中央図書館が果たしている役割、都道府県立図書館としての役割は維持又は拡充**した上で図書館を発展させていく、という点は議論の前提

➢都立図書館の一番の強みは、高度な調べ物をはじめ、あらゆるジャンルの調査研究に幅広く対応していること

➢ファブラボやメイカースペースなどについては、図書館の資料や図書館員などの「図書館が持っているもの」を活かしているところがうまくいっている。**図書館が持っているものや図書館だからできることを中核**に取組を考えることが大事

（５）東京ならではの図書館として

➢産業界、学術界、観光客等、多くの人が参画しやすく、最先端が呼吸できるエリア。考えてみたい、創りたいという 気持ちを後押しすることで多様な創造性の交差点となる。**世界に誇る都市として、静かだけど物凄く活力があるといった空気感**が出ると良い

➢ある種、都立中央図書館というのは**公共図書館のリーダー**だと思う。他の図書館との連携や、**世界と何か連携する等の要素**が入ってくると良い

➢江戸に理想形があったとして、それを手放したのも人間。そこに学びがある。**東京の過去や未来、今を知り、考えられる場所**だと良い

➢台湾の高雄図書館では、展示や本の中に街の書店を紹介するコーナーがあり、高雄という街で、本に触れる生活を多くの人に体験して欲しいという高雄市の目的意識を感じた。新たな都立中央図書館も、東京で生きるとはどのようなことかが、形になっていて欲しい

➢資料の魅力に加え、**外観や内観等の建物の魅力で、誰もが行きたくなる図書館、東京で一番、日本で一番の図書館**を目指して欲しい

都立中央図書館の在り方の概要

（参考）令和７年４月公表

検討の背景

都立中央図書館の施設で老朽化が進行。また、DXの進展など社会環境の変化や、海外の図書館等で従来の閲覧提供機能に加え、新たな価値や機能を提供していることを踏まえ、再整備を見据えて新たなコンセプトや機能等を検討

社会環境等の変化

〇都市課題のグローバル化やDXの進展等
〇北欧の図書館等で文化的な対話の場、多様な学びの場など新たな価値や機能を提供

世界の図書館の潮流

デジタル技術を活用した展示や創作活動の場の提供
➢デジタル技術を活用した大型スクリーン展示。デジタル工作機器による創作
利用者同士の対話・交流や、様々な分野・情報に触れて学ぶ機会を提供
➢ワークショップなどを開かれた場所で実施。イベントや講演会、展示などを常時実施

大型スクリーンによる展示

利用者同士の対話・交流

新たな都立中央図書館について

デジタル社会におけるリアルな図書館の意義は、本から必要な情報を探すことにより物事を俯瞰できたり、偶然手にした本から多様な情報が得られ、意外な発想や新たな発見を生むことにある

コンセプト　「Library for Creation （創造・交流図書館）」　図書館を新たな智を生み出す空間と捉える

新たに付加する機能

知的好奇心を喚起し学びを深める
➢子供や障害者など、多様な人々が気付きを得る体験をする
➢所蔵資料を基にした学びや体験をする

人々の創造や交流を生み出す
➢多様な形で、人々が創造に取り組むことができる
➢人々が交流し、気付きや思索のきっかけを得る

多様な知を集積・発信
➢活字の本、音楽や映像、人も含めた多様な形態の知が集まり、発信していく

3点の機能が、相互に作用・循環することで新たな智の創造につなげるものとする。
〇具体的な取組に当たっては、３点の機能を貫くテーマで事業を実施し、調査研究への貢献という従来の強みを生かしたサービスを展開
〇従来の強みについても、魅力的な開架・閲覧空間の提供、アクセシビリティの確保などにより進化

施設整備の基本的な考え方

〇現地改築では解体・新築工事に伴う休館等により十分なサービス提供が不可能であることなどから、移転して実施
〇アクセスが良く、多くの人々が行き交い、周辺に教育機関が集積し様々な活動が展開されている神宮前五丁目地区の都有地に整備
⇒　当該地区に集積予定の多様な機能と連携しながら、東京全体の智の向上を図る